

子育て支援センター

子育て支援センターでは、子どもが安全に伸び伸びと遊べ、季節の行事や生きる力を共に学ぶ活動を行っています。また、町のホームページに毎月のお便り、行事予定を掲載しています。



★地域子育て支援センター(総合ケアセンター南三陸2階) ☎46-3042

【時間】午前10時～午後3時
(土日、祝祭日は休み)

【対象】未就園児とその保護者、祖父母
*子どもの水分補給として飲み物を持ってきてください。
*毎週木曜日にお楽しみ行事があります。

入谷ひろば

【日時】11月8日(水)午前10時～11時30分
【場所】入谷公民館和室
【対象】未就園児とその保護者、祖父母
【内容】12月のカレンダーを子どもと一緒に作ります。

★ ゴール目指して、よーいどん! ～子育て支援センター合同運動会開催～

10月4日(水)、町内にある子育て支援センター合同の運動会を開催しました。気持ちのいい秋空の下、はいはい競走やかっこ、親子競技に玉入れ、そして飛び入りでのお父さんリレーも行い、楽しいひとときを過ごしました。頑張ったごほうびは、手作りメダル。来年も頑張ろう～♪



時代は変わっても、現代に脈々と受け継がれる伝統芸能。この大切な郷土芸能を次世代にバトンパスしなければなりません。二人にとって郷土芸能を伝えるとは。



行山流水戸辺鹿子躍保存会
会長 村岡賢一さん

「これまでやってこれたのは、子どもたちと一緒に守る仲間たちがいて、そういう人たちと色んな苦しみや喜びを一緒に分かち合ってきた。それが今日まで続けてこれたわけかな。一人だったらできなかったのかもしれない。見てくれるお客さんがいて、子どもたち、仲間たちがあってやってこれました。伝えていかなければならないことを考えてやってきたのではなく、毎日毎日の活動がここまでできたというだけの話です。水戸辺鹿子躍を伝えていかなければならないという気負ったものは何もないんですよ。ただ「自然体」の中で、そういう

後世に伝えることに拘わらず、楽しんでやるのが大切であり、伝えていくことの近道なのかもしれません。

地域のつながり、人とのつながりが自分の中に染み込んでいる。そのうち、子どもたちの誰かが鹿子躍を継いでくれるだろうと思っています。ただ、そのためには、リーダーの育成が必要で、リーダーはそれなりに皆をまとめる力が必要なので、今の若い人たちのなかからリーダーを作る必要があると思っています。しかし、あくまでも「自然体」。私があまり構えてしまうと他の人たちがプレッシャーを感じてしまうので、楽しくやっているところを見せていかないと。そのことがあとにつながるようになるでしょう。私がリーダーをやりますという手が自然とあがってくるようにもっていただけらなと思っています。」

特集 「伝える×伝える」

今年の当番講は林際講でした。9月に入ると毎晩、芸者たちは、笛師、大太鼓、小太鼓、獅子、獅子愛子、それぞれの部門に分かれ練習を重ねます。また、花輪を作る人、「あわじ」と呼ばれる水引の飾り物を作る人、食事を用意する人など、当番講100人以上の皆さんが2週間に渡り作業と練習に励んでいける打囃子。そのつながりは、「コミニティ」の域を越え大きな絆のように思われます。

「私が打囃子に出したのは小学校5年生からです。そこからずっとかかわっています。祭りが好きだから祭りにタッチしているのじゃない。だから、祭りが大変だとは思いません。4年に一度回ってくる祭りだから必ずやらなければならないと思うてやってきました。ずっと引き継いでいくという気持ちは今も変わらないし、子どもや孫たちがずっとやってくればなと思っています。」

林際講は全部で108戸あります。幸いにもお祭り好きな人がたくさんいます。いくら講長が頑張ったところでできるものではないし、皆の協力がもたらえないとやっつけません。今年は9月2日から16日までの15日間練習を行いました。花輪を作るだけでも最低10日間ばかりです。この練習の1日の参加人数は100人、全部で1,500人です。今、これだけの人数が集まるというのは、他にはありません。しかも、毎日毎日100人の人たちが集まってくるのだから。

当然、祭りが好きな人、そうじゃない人、そして中間の人。それぞれいるとは思いますが、この林際はやるとなったら、皆まとまる。決断さえすればまとまると言われる。それも伝統だと思おう。そういうパワーはありますよね。4年に一度祭りをやることによって地域がまとまり、その後の地域のまとまりへと波及していく。また、普段接点がない小学生が祭りを通じて私たちが大人を覚えてくれる。そして挨拶をしてくれる。こういった親しみを感じるようなきっかけとなる。触れ合いの場となっているのかな。そういったことも含め、祭りが好きなんですよ。」

地域のつながり、絆が強いからとまれる。そういった地域全体が「入谷打囃子」を伝えているのではないだろうか。人と人、地域とのかかわりが薄れていく中で、このことが一番の宝物なのかもしれません。



林際契約講 講長 山内敏裕さん